

令和2年度事業報告

(令和2年4月1日～令和3年3月31日)

目次

1. 法人の状況に関する重要な事項
2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）
3. 事業報告附属明細書



1. 法人の状況に関する重要な事項

令和2年4月1日から令和3年3月31日に至る事業活動として、定款第3条に掲げる「実学の精神に則り、生物学的製剤等に関する研究・調査及び助成・顕彰等を行う等して、広く公衆衛生の進歩を図り、兼ねて自然科学の昂揚に資する」ことを目的として、定款第4条並びに平成31年4月1日付けで内閣府より変更認可を受けた公益目的支出計画に基づき以下の諸事業を行った。

本事業報告 段落番号	事業名	定款 第4条	公益 目的 支出 計画
1(1)	公益目的支出計画に基づく実施事業		
1(1)①	研究助成事業	(2)	公益1
1(1)②	顕彰事業	(2)	公益2
1(1)③	生物学的製剤等に関する研究・調査事業	(1)	継続1
1(1)④	予防衛生普及事業		継続2
1(1)④ア	医療技術者を養成する事業への協力支援	(3)	
1(1)④イ	奨学金給付	(6)	
1(1)④ウ	学術集会開催・後援	(7)	
1(1)④ウ	大学・研究機関の後援	(7)	
1(1)④エ	寄附講座	(7)	
1(1)⑤ア	特定寄附（熊本大学）	(7)	寄附1
1(1)⑤イ	特定寄附（熊本保健科学大学）	(7)	寄附2
1(2)	その他の事業		
1(2)①～⑤	医療機関等への協力・支援	(4)	/
	地球環境保全に関連する事業	(8)	
	健康管理支援事業ほか	(9)	

定款第4条

(事業)

第4条 当法人は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1) 生物学的製剤等に関する研究・調査
- (2) 感染症及び血液領域を中心とした研究等に対する助成・顕彰
- (3) 医療技術者を養成する事業への協力・支援
- (4) 医療機関への協力・支援

- (5) 印刷物の刊行
 - (6) 奨学金の支給
 - (7) 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援
 - (8) 地球環境保全に関連する事業
 - (9) その他当法人の目的達成上必要と認める事業
- 2 前項の事業は、本邦及び海外において行うものとする。

(1) 公益目的支出計画に基づく実施事業

① 研究助成事業

感染症領域（人獣感染症含む）及び血液領域を中心とした基礎的研究を対象とした2つの研究助成事業を実施した。

「化血研研究助成」は年齢制限を設けずに公募し、先端的・独創的に研究に取り組んでいる研究者個人若しくは研究チーム・団体に対して1件あたり年1,000万円を3年間贈呈する。「化血研若手奨励研究助成」は45歳未満（申請締切時点）の研究者を対象に公募を行い、先端的・独創的に研究に取り組み、独立した研究課題（研究テーマ）を持った将来有望な若手研究者に対して、1件あたり300万円を贈呈する。申請された候補者の中から、学識経験者10名で組織される助成選考委員会で選考した後、理事会において「化血研研究助成」6件（別表1）、「化血研若手奨励研究助成」10件（別表2）を決定し、計9,000万円を贈呈し、ホームページに公開した。

② 顕彰事業

感染症領域及び血液領域の研究において大きな成果のあった者で、今後も研究の進展に貢献が期待される個人・法人・研究チーム・団体を顕彰する事業を実施した。

当法人が定めた計16の学会（表1）、並びに当財団の理事及び評議員から推薦のあった者について、学識経験者8名で構成される顕彰選考委員会における厳正な選考を行い、理事会で『太田原豊一賞』顕彰者2名を決定（表2）し、ホームページに公開した。授賞者には、令和3年3月11日開催の贈呈式において、第1回授賞者2名とともに、太田原豊一賞（賞状、トロフィー）および副賞（1件1,000万円）を贈呈した。

表1 推薦学会

日本免疫学会	日本ウイルス学会	日本公衆衛生学会
日本感染症学会	日本熱帯医学会	日本獣医学会
日本細菌学会	日本血液学会	日本輸血・細胞治療学会

日本血栓止血学会	日本薬学会	日本生化学会
日本エイズ学会	日本癌学会	日本寄生虫学会
日本ワクチン学会		

表2 第2回『太田原豊一賞』受賞者

氏名	所属 役職	受賞研究テーマ
松岡 雅雄 先生	熊本大学大学院 生命科学研究部 教授	ヒトT細胞白血病ウイルス1型による病原性 発現機構の解明
山崎 晶 先生	大阪大学 微生物 病研究所 教授	結核菌脂質を認識する受容体クラスターの発 見と宿主免疫賦活機構の解明

③ 生物学的製剤等に関する研究・調査事業

ア. 熊本保健科学大学 生物毒素・抗毒素共同研究講座

令和元年10月1日に熊本保健科学大学に開設した生物毒素・抗毒素共同研究講座において、継続して生物毒素、抗毒素とその品質管理手法の開発研究を実施した。

表3-1 熊本保健科学大学生物毒素・抗毒素共同研究講座スタッフ

氏名・役職	経歴または現所属
高橋 元秀 特命教授	元国立感染症研究所室長
坂本 智代美 特命助教	元熊本大学発生医学研究所
友清 和彦 客員教授	一般財団法人化学及血清療法研究所
諸熊 和則 客員准教授	KMバイオロジクス株式会社
田上 友貴 客員研究員	一般財団法人化学及血清療法研究所

イ. 熊本保健科学大学 品質保証・精度管理学共同研究講座

令和2年10月1日に、熊本保健科学大学に品質保証・精度管理学共同研究講座を開設し、医薬品GMPとその品質保証、ISO15189を中心とした医学検査所の品質管理の調査・研究を開始した。

表3-2 熊本保健科学大学品質保証・精度管理学共同研究講座スタッフ

氏名・役職	経歴または現所属
蛭田 修 特命教授	元日本製薬団体連合会品質委員会委員長
松原 朱實 客員教授	元熊本保健科学大学教授
櫻井 信豪 客員教授	元PMDA執行役員

ウ. 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP 講座

令和2年7月1日に、東京理科大学薬学部に社会連携講座として医薬品等品質・GMP 講座を開設し、同大学 鹿野真弓教授と当法人理事長 木下統晴の2名を研究総括とした共同研究の枠組みのもと、医薬品 GMP を中心とした研究とその教育システムの開発を開始した。

表 3-3 東京理科大学・社会連携講座 医薬品等品質・GMP 講座スタッフ

氏名・役職	経歴または現所属
鹿野 真弓 教授	元 PMDA 審議役
櫻井 信豪 教授	元 PMDA 執行役員
坂田 政幸 研究員	元熊本県薬務課職員
蛭田 修 共同研究員	熊本保健科学大学特命教授

④ 予防衛生普及事業

ア. 医療技術者を養成する事業への協力・支援

学校法人银杏学園熊本保健科学大学及び国立大学法人熊本大学大学院生命科学部（保健学系）に対し、その用途を医療技術者養成と指定して、それぞれに1,000万円の寄附を行った。

イ. 奨学金の給付

熊本保健科学大学の学生に対し給付型奨学金「化血研奨学金」の支給を、九州8大学（九州大学、熊本大学、長崎大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学）の医学部博士課程、及び医学部医学科課程の学生に対し給付型奨学金「化血研医学奨励奨学金」の支給を行う事業を実施した（両奨学金ともに一人当たり月5万円（年間60万円））。

対象となる大学から推薦を受けた20名について、理事面接の上、全員への奨学金給付を決定した。令和2年度以前からの支給者23名と合わせて計43名（表4）に、総額2,550万円を支給した。

表4 奨学金支給件数（令和2年度）

	熊本保健科学大学	熊本大学	九州大学	長崎大学	佐賀大学	大分大学	宮崎大学	鹿児島大学	琉球大学	件数合計
化血研奨学金	12 (6)	/	/	/	/	/	/	/	/	12 (6)
化血研医学奨励奨学金	/	12 (4)	4 (2)	6 (3)	0 (0)	1 (1)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	31 (14)
全体合計										43 (20)

※カッコ内は、令和2年度に新規に支給を開始した件数

ウ. 大学・研究機関の後援及び学術集会の開催・後援

1. 阿蘇シンポジウム（主催）

令和2年8月に第41回阿蘇シンポジウムの開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、中止した。

2. 先天性代謝異常関連シンポジウム（共催）

令和2年7月19日にWEB開催された一般社団法人日本小児治療協議会が主催する第9回九州新生児スクリーニング研究会に100万円を助成し、共催者として支援した。なお、一般社団法人希少疾病早期診断ネットワークが主催するライソゾーム病早期診断ネットワーク会議は、新型コロナウイルス感染症の流行を受け、開催中止となった。

3. 肥後医育塾（共催）

令和2年度は、以下の3回の公開セミナーを肥後医育振興会、熊本日日新聞社と共催した。新型コロナウイルス感染症の流行を受け、第1回公開セミナーは2020年8月23日に定員を50名に限定して開催、同第2回は2020年11月1日に定員を約150名に絞り開催、同第3回は2021年2月7日に無聴衆で行った講演内容をWEBで配信し実施した。当法人は、公益財団法人肥後医育振興会に500万円を助成し、共催者として支援した。

- 第1回公開セミナー「がんの予防と早期診断」
- 第2回公開セミナー「あなたがもし「がん」にかかったら」
- 第3回公開セミナー「知っておきたい次世代がん治療」

エ. 大学寄附講座

1. 熊本大学国際先端医学研究機構造血幹細胞工学寄附講座

熊本大学国際先端医学研究機構（IRCMS）の造血幹細胞工学寄附講座（平成31年4月に設置）に対し、2,500万円の寄附を行った。

2. 熊本大学大学院生命科学研究部地域連携病理学寄附講座

熊本大学病院の地域連携病理学寄附講座（令和元年10月に設置）に対し、2,000万円の寄附を行った。

オ. 印刷物の刊行

当法人の事業内容を紹介する定期刊行物について、令和3年4月発刊を目指し内容の企画・制作を進めた。

⑤ 特定寄附

ア. 国立大学法人 熊本大学への特定寄附

当法人が設立された熊本医科大学を前身のひとつとする熊本大学に対して3,000万円を寄附した。

イ. 学校法人 銀杏学園熊本保健科学大学への特定寄附

過去に当法人が公益事業の一つとして設立した化血研衛生検査技師養成所を前身とする熊本保健科学大学に対して3,000万円を寄附した。

(2) その他の事業

① 健康管理支援事業

公益財団法人友愛福祉財団が実施主体である健康管理支援事業について、令和3年度の本事業に要する経費の当法人分担金として、1,471万1,021円を友愛福祉財団に支払った。

② 地球環境保全に関連する事業

水涵養の目的で、平成9年度及び平成10年度に九州森林管理局との分収造林契約に基づき熊本県山都町内大臣の国有林の一部に植林を行い、維持している。

③ 医療機関への協力・支援

医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院へ常勤の経営管理系スタッフとして職員1名を派遣した。

④ 不動産賃貸事業

ア. 熊本県熊本市南区城南町舞原

年間を通じて、医療法人城南ヘルスケアグループくまもと南部広域病院に対し、その病院用地を賃貸した。

イ. 東京都港区白金台

旧東京営業所跡地に、賃貸用マンションの建設を開始した。

2. 業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）

内部統制システムは、一般法人法第90条第5項により、大規模一般財団法人に対し、その決定が義務付けられている。当法人においては、過去に一般法人法第2条第3項に定める大規模一般財団法人※に該当する時期があり、平成29年に理事会で内部統制システムの整備に関する基本方針の制定を承認した。現在、当法人は大規模一般財団法人※に該当しないこと、主要事業のKMバイオロジクス株式会社へ承継により事業内容、組織構成並びに従業員数が大きく変わったことから、今後、現在の基本方針を見直し、現行組織に適した内部統制システムに変更していく予定である。

※大規模一般財団法人：定時評議員会に報告された最終年度の貸借対照表の負債の部に計上した額の合計額が200億円以上

3. 事業報告付属明細書

別表 1 化血研研究助成概要

別表 2 化血研若手研究奨励助成概要

【化血研研究助成】

感染症領域（人獣含む）及び血液領域を対象とした研究に対して助成を行い、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：3,000 万円 （1,000 万/年×3 年間）/件

助成期間：3 年

採択件数：6 件（申請件数 145 件：採択率 4.1%）

令和 2 年度助成対象者一覧

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
井上 大地	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター	上席 研究員	プロモドメインファミリー分子の転写後制御による造血器腫瘍の発症メカニズムの解明
木村 宏	名古屋大学 大学院医学系研究科	教授	普遍的なウイルスが腫瘍をもたらす謎の解明
滝澤 仁	熊本大学 国際先端医学研究機構	特別 招聘教授	感染ストレスによる造血幹細胞クローン競合のゆらぎと腫瘍化の理解
塚崎 智也	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	教授	口腔病原菌バイオフィームに関わる特殊な分泌装置の基盤
原 英樹	慶應義塾大学 医学部	特任 准教授	宿主炎症応答を利用した病原菌の生体内増殖機構の解明と薬剤耐性菌治療への応用
保仙 直毅	大阪大学 大学院医学系研究科	教授	多発性骨髄腫に対する新規 CAR-T および CAR-NK 細胞療法の開発

【化血研若手研究奨励助成】

感染症（人獣含む）領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、将来有望な若手研究者の研究を奨励助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：300 万円 （年間 300 万円）/件

助成期間：1 年

採択件数：10 件（申請件数 209 件：採択率 4.8%）

令和 2 年度助成対象者一覧

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
案浦 健	国立感染症研究所 寄生動物部	主任 研究官	オルガネラ制御を中心とした肝内型マラリア原虫の休眠・増殖分子基盤の解明
石津 綾子	東京女子医科大学 医学部	教授	サイトカイン応答性による発生・成人期造血幹細胞の維持制御機構の解明
伊藤 美菜子	九州大学 生体防御医学研究所	准教授	血液中の脳梗塞後炎症抑制因子の探索
遠西 大輔	岡山大学病院 ゲノム医療総合推進センター	准教授	腫瘍内シグナルと腫瘍外免疫環境を同時に標的とする難治性悪性リンパ腫の新規免疫療法の開発
岡崎 朋彦	東京大学 大学院薬学系研究科	助教	タンパク質カルボキシル化による新規抗ウイルス応答制御機構の解析
河部 剛史	東北大学 大学院医学系研究科	准教授	新規 T リンパ球の同定ならびにその生理学的・病理学的意義の解明
菊繁 吉謙	九州大学病院 遺伝子・細胞療法部	講師	ヒト白血病幹細胞特異的代謝特性を標的とした治療法の確立
黒滝 大翼	横浜市立大学 大学院医学研究科	講師	造血早期運命決定の感染防御における意義の解明
野澤 孝志	京都大学 大学院医学研究科	助教	Rab GTPase ネットワークによるゼノファジー制御機構解析
渡部 匡史	琉球大学 大学院医学研究科	講師	沖縄古典型カポジ肉腫における KSHV vIRF2 遺伝子変異の分子ウイルス学的解析